

企業名：エイチ・アイ・エス

レポート名：コーポレートレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

HIS は国内でも有名な旅行事業を営む企業である。国内旅行や海外旅行の手配等を始めとし、外国人の顧客に対する訪日旅行や、企業向けの海外渡航に関する企画等を行っている。これらの旅行事業から発展した形として、テーマパーク事業やホテル事業、地方創生に関わる事業も展開している。また、同社は農業や IT 方面にも新規参入を図っている。HIS はグループ理念として「自然の摂理にのっとり人類の創造的発展と世界平和に寄与する」ことを掲げており、これを基に「目指すべき姿」として 6 つの目標、「相互理解の促進」「世界の人々の見識の向上」「快適な空間と観光資源の提供」「環境未来都市の実現と社会との共存」「安定したエネルギーと食料の確保と供給」「ロボット活用による世界最高水準の生産性の実現」を提示している。これらの目標は、同社の事業内容に則っており、実現可能なものであると思った。観光資源を始めとし、「相互理解の促進」「世界の人々の見識の向上」といった世界と日本を繋ぐ目標は、旅行事業を営む HIS グループであるからこそ定められるものであると感じられる。そして、「安定したエネルギーと食料の確保と供給」といった内容は、新規事業の立ち上げを通して実現を試みており、同社の理念に対する真剣さを垣間見ることができた。ただ、「ロボット活用による世界最高水準の生産性の実現」については、一部に関連した説明は存在したが、この統合報告書からその詳細を知ることは難しいように思える。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

同社が展開する事業については前述の通りであるが、旅行事業としての側面を見たときに、HIS は国内に 152 拠点を有する業界大手の企業であるということからも、報告書からその競争優位性が理解できる。他の事業について、HIS が競争優位性において他社に勝っていると思える要素は、報告書からはあまり理解することができなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

報告書に記載されている財務データでは、2020 年を機に売上高が急落しており、これはコロナウイルスの流行によるものだと考えられる。同社は旅行事業を中心としており、競争優位性もそこに存在しているが、現在でもコロナウイルスは世界中で依然として感染を広げており、旅行事業は厳しい状況が続くと考えられるため、競争優位性の持続性には疑問が残る。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

HIS グループは多角的かつグローバルな事業を行う企業であり、このような企業で働くことによって、自身の人的資本の価値向上が期待できると考える。しかし前述の通り、同社はコロナ禍において厳しい状況に立たされており、この状況下においては、本来期待できる人的資本の価値向上が達成できない場合も考えられる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

前述した通り、この企業の掲げる目標の一つである「ロボット活用による世界最高水準の生産性の実現」に関する記述がこの報告書内ではほぼ言及がなされていない。そのため、関連した項目を増やすことで説明を行うことが求められると考える。また、これの他にも同社が運営する事業について、その詳細が説明されていないものがあるため、その記述に関しては改善の余地があると思われる。

6. 参考文献

- ・株式会社エイチ・アイ・エス「統合報告書 2021-2022」